

・・・2022年度総会・・・

久木小学校区住民自治協議会2022年度総会が、4月23日午後2時から地域活動センター久木会館で開催されました。

出席者は市長、市議員、行政関係者、来賓、住民協会員総勢41名で実施され、総会成立の定足数は議決権数48となり総議決権78の過半数を超え総会成立の定足数を充足している事が確認され以下の6議案について審議が行われました。

- ①第1号議案：2021年度活動報告
- ②第2号議案：2021年度決算報告
- ③第3号議案：2021年度会計監査・業務監査報告
- ④第4号議案：2022年度活動計画（案）（含む久木小学校区年代別人口構成・参考）
- ⑤第5号議案：2022年度収支予算（案）
- ⑥第6号議案：役員人事の件（案）

上記報告は事務局、会計担当理事、監査役、ふれあい部会長、減災部会長代理、こども部会長、拠点部会長、久木会館長により行われ、全て承認され総会は無事終了しました。

久木小学校区住民自治は2022年度で6年目を迎える事になりましたが、コロナ禍の影響、様々な課題を抱えつつ、各部会の活動はお陰様で着実に深化を遂げていることを実感します。各部会長の報告も熱気に溢れ、充実したものとなりました。今年度も地域を巡る課題は山積しておりますが住民協スタッフ全員で挑戦して行く所存です。新しい事を創造するには、仲間と正しい方向性を設定して、思いを共有しなければなりません。今回の総会で強く感じた事は、確実に想いを伴にする仲間がここに居るということを肌で感ずるものとなりました事ここに報告申し上げます。

事務局長 石井 達郎

2022年度総会

開催日時と場所：2022年4月23日（土） 14

時00分～16時25分、久木会館

出席者：出席者総数：41名、（内 行政7名、

議事

報告事項として、2021年度活動報告・決算報告・監査報告、決議事項として2022年度活動計画（案）・収支予算（案）、役員選任の件（案）が提案され、いずれも全会一致で承認されました。

尚、決議事項の審議に入る前に、海野氏より2022.1.1現在の、当該地域の年代別人口構成についての考察が披露され、今後の住民協が目指す方向性を考える一助となる旨説明されました。

市長・議員：4名、来賓等：1名、ハイラン

ド4名、山の根12名、久木9名、その他4名）

会員出席：22名、委任状提出者：20名

議決権数48/議決権総数78

参加された市長の挨拶の中で、下記の発言がありました。

◆住民協の在り方：久木住民協は、予算内容、活動内容をみても、今活動している4つの住民協の中では一番活発な活動をしているように感じる。

住民協の設立は前市長から引き継いだものであるが、行政では困窮者の把握などはなかなか難しい。一番の安全・安心は身近な人のとの交流、見守りなどにより達成出来ると考えており、逗子市としても一緒になって安心した街づ

くりの実現をめざして真摯に取り組みたい。

また、施策実現の為に、市との橋渡しに議員の方に協力してもらうのも1つの方法だと思う。

◆防災・崖地対策：包括的防災体制の構築などに関しては、市の体制が未だ整っていない点があり、住民協との議論が進まないのではないかなと思う。

また、崖地の問題は市として避けて通れない重要課題である。私有の崖地の整備補助金を80万円から、工事費の1/2最高200万円に引き上げ、申請分を見込んだ年度予算を組んでいるが、追加申請があれば補正予算を組んでも補助するつもりである。

防災は最重点課題であり、市としても意識して取り組んでいく。

◆子育て支援：コロナ禍で働き方、暮らし方が変化している。学校の卒業式に出席する人数も減っていると聞く。子育ての環境変化に対応した支援を今後考えていきたい。

◆カーボンニュートラル：該問題は、国に任せておけば良いというものではない。

逗子市はエネルギー費用として、90億円かかっている。エアコン、車など省エネ技術はかなり進んでいる、そういった物をうまく利用していけば、2050の目標達成も視野に入ってくると思う。

令和4年4月度役員会

開催日時と場所：2022年4月2日(土) 13時
議事

30分～15時30分、久木会館、参加者16名
(内役員14名)

(1) 事務局からの報告事項

①逗子市住民協連絡会(3/25(金)実施)報告

- ・行政側より、市長が1月31日に表明した「逗子カーボンニュートラル2050」宣言に基づいた住民行動の徹底を要請された。
- ・本住民協の申請した予算については、議会承認

を得た事、また4月～5月には予算額が振り込まれる予定である旨報告された。

・逗子市自治基本条例の制定が、棚上げされたままであるが、住民協活動に関しては、別途「住民協条例」を制定して対応することになった旨報告があつた。

(2) 審議事項

① 2022年度総会資料の件

配布資料を基に、総会の準備、議事次第、資料の確認が行われ、以下のコメントがあつた。

・当日の出席者名簿は、総会開催規定の会員定足数に達したか否かの判断が明確にでき、また後日の検討データとすべく、参加者の在住地区が識別できる形式のものを用意すること。

・久木会館の収支決算書は積立金の欄、報告者の欄、監査者の欄など不備な事象が見られるので、再度確認すること。本件に関して、会館運営は月末まで続いているのに、監査が3月30日では対応が難しいとの提言があつた。本件は、資料発送日程等を考慮して決められたものであるが、来年度は総会日程、役員会日程、監査日程など総合的に見直すこととした。

・第六議案「役員選任の件」については、山の根の親交会会長の交代に伴い副会長が変更される。

(副会長：加藤富士男 理事：龍崎成人)

・予算案の中で、みんなの食堂の保険が記載されているが、前回の役員会時、市民活動保障制度でカバーできるのではないかと提起があり、内容

の確認をすることとなっていたが、みんなの食堂としては別途保険を掛けることが確認された。

② 拡大久木朝市(3/27実施)のレビュー

・出店者の特色が出て、各店舗の魅力が引き出せた、また社協とのコラボイベントもあり、会場全体を盛り上がらせることが出来た。・今までのノウハウを生かして、打ち合わせを重ねなくとも、計画・遂行することが出来た。・PTAからの参加者の中には今後も出店を希望する人が居り、運営にも参加を促し、子供を仲立ちとした地域活動につなげる糸口が見えた。

・課題点として、終了時間が朝市メンバーとPTAメンバーとで時差があり、備品の片付けもバラバラで、最終的な清掃など出店者全員で実施すべきところが曖昧になった。

・今後の予定 5,7,9,11月に朝市を開催予定、PTAとのコラボは年1回とし11月実施を予定

③ 会員・役員動向の件

事務局より、清水三省氏(逗子ハイランド在住)の入会につき諮問有り承認された。

又、4月にハイランド自治会会長に就任する清水三省氏の役員登録に付き諮問があり、承認された。

《レポート》 2021 年度 第三回久木朝市《拡大版》

開催報告

校区住民協 拠点部会長 井上亮子
(当会理事)

久小区住民自治協議会・拠点部会では、2021年度最後の日曜日、折しも逗子市市議会議員選挙の投票が行われている久木小学校の校庭にて、久木朝市を開催いたしました。

今年度三回目の開催でしたが、小学校の校庭をお借りし、かつ、久木小学校PTAが募った出店有志を加え、《拡大版》朝市として行おうという、まさにwithコロナ時代に挑む大胆な企画でした(笑)。コロナで萎縮した地域の『交流筋』をほぐすべく、参加を申し出てくださったブースは、トータル21軒(朝市から14軒、PTAから9軒)。二重円状に机を並べ、「このご時世に不謹慎な!」と批判的なご意見もうっすら覚悟しつつ準備をしていたのですが、ふたを開けてみればなんとありがたいことに、10時開店前から、選挙の帰りに立ち寄った方々の品定めが始まりました。やっぱり、売る方も買う方も、こういうちょっとしたワクワク感に飢えていた感じは確かでした。

朝市恒例の地元住民協会員による家庭菜園お野菜の持ち寄り販売と、店舗のない企業スタイルの地元ブランドスイーツなどのお店が並び、PTAからは、子どものおさがり服・玩具に始まり、子ども自身によるDXカードの叩き売り(※実際は叩いてはいません、盛ってます(笑))、保護者自慢の手作りの品、PTAバドミントン同好会のゲームコーナー、久小美化委員会の校内ハーブ活用、さらには似顔絵コーナーまで、どれもユニークな



お店が並び、お昼まで活況が続き、お弁当形式で、『久木みんなの食堂』のみなさんが作ったお弁当が販売されましたが、瞬殺で完売!食べられなかった子ども達、ごめんね。

「やってみよう!」の心意気でやってみた《拡大版》。来てくださった方が、久しぶりに賑わう空気を吸って一息ついて頂いていたのなら嬉しいです。

毎度のことですが、朝市にご参加ご協力いただいた皆さんと、関心をもってくださいるご来場の皆さんにこころから感謝!そして、今回は何よりも、グラウンドの使用を快く許可してくださった久小の校長先生に感謝を申し上げます。

久木朝市・開催のお知らせ

日時: 5月22日(日) 10時~12時

場所: 久木会館、エントランス

《レポート》 カーボンニュートラル(続)

6. 水素社会の幾つかの例

水素社会の到来を予期させる、幾つかの例を紹介しておきましょう。

先駆的で身近な実例として、家庭のエネルギー源として普及し始めている「エネファーム」があります。エネファームは、都市ガスから水素を作る改質器、水素を空気中の酸素と反応させて電気をつくる燃料電池、直流を交流に変えて配電する装置、発生する熱を温水に変える熱回収装置と温水の貯蔵タンク、が一体化したコンパクトな装置です。家庭内で電気を作り供給するとともに、同時に発生する熱を温水に変えて家庭内の給湯も行

う水素活用のシステムです。このような電気と熱を同時に作り出すシステムを、コージェネレーション(コージェネ、Cogeneration)と呼んでいます。一次エネルギーを23%、炭酸ガスの発生量を38%削減するといわれています。

車の世界では、トヨタが発売しているトヨタMIRAIという車は、水素タンクを搭載した燃料電池車です。MIRAIとは別に、トヨタではガソリンの代わりに水素を燃料にしたエンジン車(カローラスポーツ)を、24時間耐久レースに参加させて話題になりました。因みにこの時の水素は、浪

江町で太陽光発電と水から作られたグリーン水素です。

東京都では、東京駅丸の内南口と東京ビッグサイトの間で、水素燃料電池車を路線バスとして走らせています。そのために、要所に燃料を供給する水素ステーションが設置されています。尚、水素ステーションは、22年1月現在で大都市中心に既に約160箇所設置されています。

JR東日本はMIRAIと同じ方式で、水素タンクと燃料電池を載せた水素電車の走行試験を始めました。

水素社会を生活に結び付ける実証実験が各地で始められていますが、その1例として宮城県富谷市で行われた実証事業について紹介しましょう。次の内容です。

太陽光発電（生協物流センター屋上）→水の電気分解→グリーン水素→貯蔵→カセットに水素充填（水素吸蔵合金（注））→トラック配送→消費者（一般家庭・店舗・児童クラブ棟）の燃料電池へ→発電・発熱（給湯）

この実証事業には、市・生協・事業会社2社が参加して、製造から貯蔵・輸送、そして利用の一貫した「全体運用管理システム」の習得を目指しており、特に生協の既存のネットワークを活用した点に意義がありました。昼間に出る太陽光発電の余剰電力を使って水素を製造し、夜間の太陽光発電が出来ない時間帯に、燃料電池を使って発電することを想定した、昼夜を通した効率的なエネルギー使用を想定しています。

家庭から出るごみを集めて発電、或いは水素を製造し、各家庭或は事業所に備えられた燃料電池に供給・発電する、地域ごとのシステムが出来上がれば、災害時にも停電のない、災害に強い新しい地域社会が形成されます。

（注1）水素吸蔵合金：水素と相性の良い金属（マ

グネシウム・チタン等）は水素と反応して化合物（水素化物）を作ります。これらの金属を複数、適した組成に混ぜ合わせて合金化すると圧力や温度差で水素を吸収（低温或いは加圧で水素を吸収）したり放出（高温・減圧）したりすることが出来ます。この特性を持った合金を水素吸蔵合金といい、ニッケル水素充電電池の電極などに利用されています。

（注2）燃料電池：電気元になるもの（燃料＝水素）と空気中の酸素を電気化学的に反応させて化学エネルギーを直接電気エネルギーとして取り出す装置です。燃料としては主に水素が用いられ、水素と空気を連続的に電解装置に送り込み反応させれば連続的に電気が得られ、生成物は水のみです。水を電気分解して水素と酸素が得られる逆反応です。燃料電池は、電解質の中に2個の電極（燃料極＝水素が反応と空気極＝酸素が反応）を挟んで電解質が入っています。燃料極（陰極）側から水素を入れ、空気極（陽極）から空気を入れると、陰極側では水素が水素イオンと電子に分解され（ $H_2 \rightarrow H^+ + e^-$ ）、

陽極側では電解質を通ってきた水素イオン、両極を外部で結んで電線を通ってきた電子が空気中の酸素と反応して水が出来ます（ $1/2 O_2 + 2H^+ + 2e^- \rightarrow H_2O$ ）。電線で電子が移動したことは直流の電気が流れたことです。燃料電池は使われる電解質によっていくつかのタイプがあり、それぞれ適した用途に使われようとしています。先に説明したエネファームでは、固体高分子型燃料電池（PEFC、電解質は固体高分子膜）と固体酸化物型燃料電池（SOFC、電解質はセラミックス）のいずれかが使われています。（次回は、7. アンモニア燃料、8. 合成燃料とメタネーションを予定）

鈴木 為 之（山の根在住）

編集後記

先日、久しぶりに神武寺を訪問した折、客殿の入り口、前庭に、ミツバツツジが見事に咲いていた。神武寺というとイワタバコが有名だが、私はミツバツツジが当寺を代表する花だと思っている。調べてみると関東、中部の低山地に生育し、開花期間は4～5月で、平地のツツジより1か月程早く開花する。花は厳しい山地に明るい紫色の花を咲かせ、ツツジより気高く美しい。私は仲間と住職と共に神武寺の参道整備等を行っているが、現在表参道にミツバツツジを植える為に2年前より種を採取し育成中である。参道を飾るまで成長するには今尚時間を要するものと思うが、参道がミツバツツジに覆われる絵を描き一人で妄想している。ミツバツツジの花ことばは「節制」「抑制の効いた生活」、厳しい岩地等に生育する事からそう名付けられた様だ、神武寺の雰囲気と良く当てはまるものである。ミツバツツジと新緑の黄緑の取り合わせが美しい。

事務局長 石井 達郎